

## 令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果から

校長 吉田 美佳

今年度のカレンダーも最後の一枚となりました。11月は穏やかな秋晴れも続き、無事に全学年の遠足を実施できました。10月末の修学旅行では、世界遺産の東照宮や落差97mの華厳の滝、いろは坂など、どこも黄色や橙の色鮮やかな紅葉に囲まれて、歴史や文化、美しい秋の自然を同時に味わえる贅沢な旅行となりました。夏休み頃には中止も危ぶまれた修学旅行・遠足が実施できたことは大変嬉しいことです。教室での学習だけでなく、集団で行動し、実物に触れ、体験を通じた多様で豊かな学びは、思い出だけでなく、ひとり一人の力になる大切な学びであると改めて実感しました。校外学習の実施にあたり、保護者の皆さまのご理解やご準備をいただきありがとうございました。

さて、5月に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果が届き、6年生には個人結果票を配付しました。学力調査（国語・算数）と学習状況調査（生活の様子）について、全国や県の結果と比較し、本校の傾向と今後の対策についてまとめましたので、お知らせします。

## 学力調査

**国語**：正答率については、全国平均・神奈川県平均より高かった。

○特に「話すこと・聞くこと」、「読むこと」が良好でした。日頃の授業で言語活動の充実に関心を入れていることもあり、「思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う力」や「文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する能力」が伸びています。

▲「書く」問題は、国平均を上回っているものの正答率は低く、また、無回答率も高かったことから、目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つけたり、目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約したりすることに苦手意識を持つ児童が多い傾向があると考えます。

☆今後は、「目的や意図に応じて自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く」という学習を、授業の中に意図的に取り入れていくことが必要であると考えます。

**算数**：正答率については、全国平均・神奈川県平均より高かった。

○「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の5領域において、全国平均・神奈川県平均とも上回っていました。特に、「変化と関係」の領域の「速さと時間」や「棒グラフ」等の解答率が高く、数量関係だけではなく、客観的に分析する力の定着に力を入れて指導してきた教育効果の表れだと考察できます。

▲「三角形の面積の求め方」や「場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をする問題」の正答率が低く、さらに考察する問題に無回答率が高かったことから、記述や応用に課題があると考えます。

☆今後は、単に答えを求めるだけでなく「根拠を見つける」「考えや予想を書く」活動を、他の教科（特に国語や理科など）とも関連させながら積み重ねることで、物事を論理的に捉え、考察し、それを分かりやすく説明（文章表現）する力をつけていきたいと考えます。

## 学習状況調査

## 学習及び学校生活・家庭学習・生活習慣

○「学校へ行くのが楽しい」、「授業の内容はよく分かる」と回答した児童が多く、授業に意欲的に取り組み、楽しみながら学校生活を送っていることが伺えます。また、基本的な生活習慣が整った家庭が多く、学校外での学習時間を十分とっていることもわかりました。一方で、新聞や読書にふれる時間が少ない傾向が表れていました。

☆今後は、一人一台端末の導入に伴い、ICT機器を学習に有効的に活用できるよう授業改善に取り組んでいきます。また、新型コロナウイルスの感染拡大の影響による休業期間中に、規則正しい生活を送ることができた児童は半数程度だったことから、生活環境の変化の影響を受けやすいこともわかりました。引き続き、児童の心と身体の健康に配慮をしていく必要があると考えます。

## 社会に対する興味・関心及び規範意識

○「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標を持っている」と7割以上の児童が回答したことから、様々なことに進んで取り組むことで自己肯定感を高めようとしている様子が伺えます。また、「人の役に立つ人間になりたいと思う」「人が困っているときは、進んで助けている」と8割以上の児童が回答していました。

☆「地域の行事への参加」については低い傾向が見られました。今年度は、感染症の影響により地域行事が中止になっていたことから、自分たちが住む地域への関心が薄れていることが考えられます。「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」と半数の児童は回答しているので、感染対策を講じながらゲストティーチャーや地域教育力の活用をより充実させたいと考えます。